

8月28日

主教教会博士オーガスチン

Aurelius Augustinus

(354~430)

～西洋古代最大の教父～



「ヒッポの
アウグスティヌス」

フィリップ・ド・シャンパーニュ

17世紀

人名辞典などではヒッポのアウグスティヌスとして書かれている。

彼は当時ローマ帝国の属州であった北アフリカのタガステ(現在のチュニジア)で生まれる。父はパトリキウス、そして母は5月4日に小祝日として覚えていたモニカである。

オーガスチンはマダウラで文法学を学び、また北アフリカのカルタゴで修辞学を学んでいた。その間、彼は奔放な生活をし、キリスト教からは離れていく。また、真理の探究を求め、マニ教にのめり込むようになる。

しかしマニ教と出会って9年がたっても心の平安を見つけることができず、修辞学の教師をしていたころ、懐疑主義、新プラトン哲学に触れ、マニ教からも距離をおいていく。

彼のキリスト教への回心に関して、母モニカの祈りは有名だが、回心をする前、彼の中に不道德な欲望が現れたことがあった。その時彼の心に貫録のある婦人と大勢の善良な人々が現れた。そしてその婦人は彼にこう言った。

「この人たちにできることが、あなたに出来ないことがあるのか。」

そして彼は聖書を開く決心をし、そこにあるパウロの言葉を読んで回心したという。

キリスト教に回心した彼は、母モニカの死後故郷ヒッポに戻り、まわりの信徒たちのなかば強制的な推薦により司祭になり、そして司教へとなって、35年間、その地域の人々を司牧する。

その後もオーガスチンは教会の教師、また神学者として、マニ教批判やアカデミアの反駁、ドナートゥス派やベラギウス主義者との論争をし、そして多くの著作を残した。その中には自伝的性格をもつ「告白」(confessiones)や歴史哲学書ともいふべき「神の国」(De civitate Dei)などがある。

彼はギリシア哲学とキリスト教とを総合させ、独自の神学をつくりあげた。また多様な主題に取り組み、「西洋の教師」とも呼ばれる。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士オーガスチンの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン